

残雪期・黒戸尾根～甲斐駒ヶ岳——初の南アルプス

(報告) U

◎日程 2016年4月30日(土)前泊～2(月) 登頂日晴れ

◎参加者 F(L)、U

「しまった、金峰って言えばよかった！」——元々出勤予定だったGWの日程の算段がつかなくなり万事休すと思っていた矢先、悪天予報で槍ヶ岳は中止。日程を短縮しての選択肢は①水牆&金峰、②千畳敷から木曾駒、③夜叉神峠から鳳凰三山の2山、④黒戸尾根から甲斐駒ヶ岳。迷わず④を選択したものの、出発が前倒しになり深夜に荷造りし翌早朝出勤後、時間ギリギリ集合の綱渡り状態。出発時に初めて荷を背負い、その重さに自分の迂闊さを悔やんだのでした。下界で使わない残雪期装備に自炊道具、しかも標高差2200m。18時、長坂ICを降り眼前にバーン！と現れた甲斐駒は特急あずさの車窓から見える端整な姿とは異なり、左肩に摩利支天を抱き無骨で豪快。独特の迫力を醸し出しています。ちょっと憂鬱……。

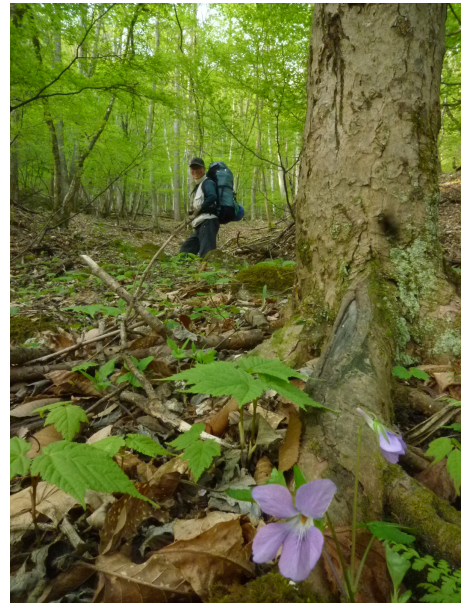
——と思い悩んだものの、翌朝6時、出発直後の吊橋から目に飛び込んできた新緑と尾白川の清流に「ベストシーズン!!」と瞬時に心変わり。頭上にアカヤシオやオオカメノキ、足元にスマレやイチリンソウが咲き誇り、オニグルミや栗の殻が転がる沢沿いの陽樹の森は、この時期、標高770mのスタート地点でも気温9.7℃と快適です。

笹ノ平手前からは木々の間に鳳凰三山の稜線が。事前情報の通り風が強く頭上の木々もざわめき、刃渡り手前でアウター着用。鎖の敷設された岩場を何度も通過し、さながら天然アスレチックのよう。刀利天狗を通過後しばらくは世代交代の進むなだらかな針葉樹の森で、まだ背の低い木の針葉と苔が木漏れ日に煌き、大好きな北八ヶ岳を想わせます。黒戸山を巻くこの尾根は登山者が少ない一方整備は行き届き、アスレチックありメルヘンありと変化に富み、道半ばで大好きになってしまいました。

2200m付近から足元によく雪が見え始め、昼過ぎに五合目小屋跡に到着。広い更地に陣取り、快晴の下でお昼休憩。今日の核心部・屏風岩が眼下に見えています。麓の祠の右手に取り付けられた長い長い梯子を上がると、その先は鎖、急梯子、橋、鎖、岩、急梯子の連続。夢中で遊んでいた子どもの頃に戻ったよう。13時40分、七丈小屋着。気温10.1℃。少し雪道が出てきたものの小屋まではノーアイゼン。ラクして登ってしまいました。

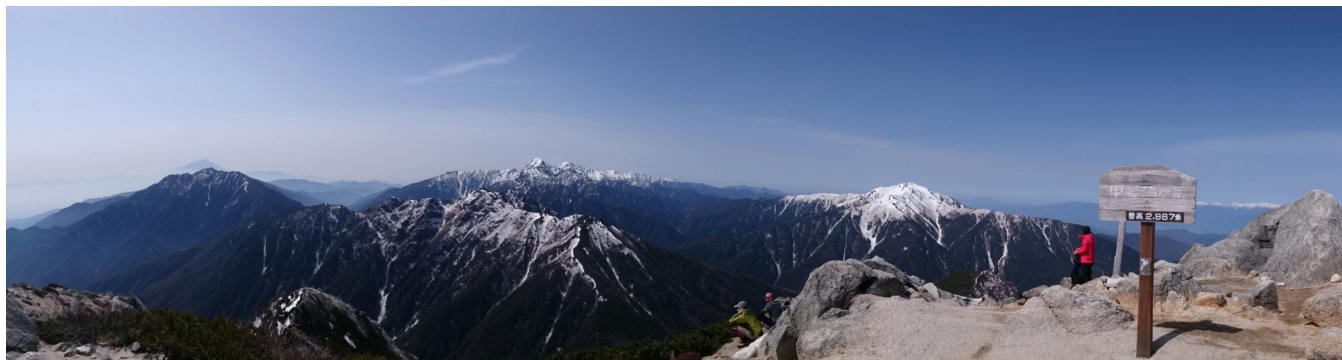
当日の宿泊者は第2小屋に5人のみ。几帳面に布団が敷き詰められた清潔な小屋で、自炊・晩酌をしつつ銘々寛ぎの時間。歓談の間に少しずつ日が暮れていきます。水は無償提供、夜間もストーブが灯り快適です。

翌朝は5時半にスタート。小屋脇の梯子を登り即アイゼン着用で出鼻を挫かれますが、初登場のグリベル12本爪ニューマチックの威力といったら!! テン場の上から続く樺林の急斜面では思わず「ピッケル捨てて走って登りたい!!」。左手には鳳凰三山の陰に富士が姿を現し、振り返れば朝靄に煙る川沿いの町に、



(スマレの咲く新緑の森からスタート)

八ヶ岳。高曇りの樹林帯を抜け 8 合目の御来迎場でロープ登場、ザックと背中の間にピッケルを挿すということ初めて覚えました。9 合目の岩場に見えていた 2 本の剣をあっという間に通過し、北岳・白峰三山が視界に。その後頂上とともに北アルプス・御岳が視界に入った頃、一気に青空が広がり快晴無風の独

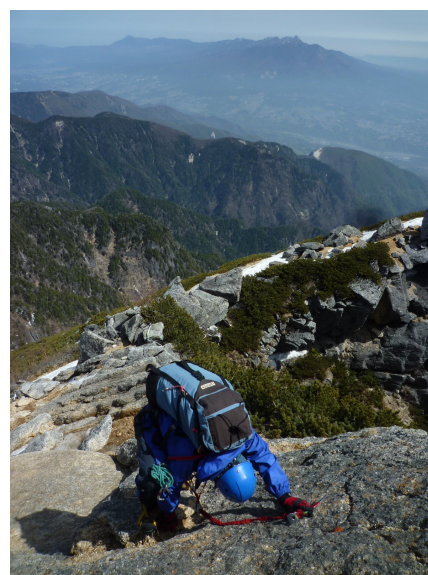


(快晴無風の頂上から。鳳凰三山の奥に富士、白峰三山、仙丈ヶ岳、北アルプス)

擅場！ 登頂時の気温 6.6℃。富士山・鳳凰三山・白峰三山・仙丈ヶ岳・御岳・乗鞍岳・北アルプス——遮るものは何もなく、早速アイゼンを外し頂上の岩によじ登り、ひたすら写真を撮り続けて 30 分以上の大休止。山頂にはほぼ雪は無く、北沢峠ピストンの他の登山者たちはデイザックにノーアイゼン。みな笑顔で写真を撮り合います。

促されてようやくアイゼン装着、何度も何度も振り返り、惜しみつつ下山開始。今度は八ヶ岳に向かっての下りです。御来迎場までは大岩の露出地で、アイゼンでの通過を勉強したかった(単に外すのが面倒だった?)ため、そのまま歩き通すことに。たっぷりの実地練習は私にはプラスだったのですが、予想外に時間がかかりました。

昼前に小屋に戻り、テラスで裸足になりパッキング & 昼食。常に一緒にすっかり友達になったような鳳凰三山を眺め、1 時間以上の大休止。



(八ヶ岳を正面に望みながらの下山)

13 時過ぎ再スタート。悪場通過

とロープのレクチャーをいただいて、15 時前に五合目小屋跡に到着。更地の奥に回り込むと、巨石には小屋を維持された故古屋義成氏のレリーフと洞穴が。小屋の創設は 1880 年代とのこと、この洞穴を拠点に活動されたのではとの Fさんの言葉に息を呑みます。

刀利天狗から刃渡りまでは次々現れるアスレチックと八ヶ岳の展望を楽しみつつサクサク進み、17 時過ぎに笹ノ平到着。はるか頭上に見過ごした木々の花に気付かされるのは下山時の楽しみのひとつ。18 時を過ぎてもアカヤシオの咲く山路を撮り、夕陽に染まる鳳凰三山を木々の間に眺め……。鹿の鳴き声とともに少しずつ夕闇の森が訪れて、登山口から 15 分の分岐に到着した頃にはすっかり夜の森に。道迷いと悪場さえ無ければヘッドランプを使い落ち着いて降りればよいと実



(故古屋氏の実直な仕事が偲ばれる)

地で教わりました。ふと徒然草の 109 段を思い出します。「目くるめき、枝あやふき程は、おのれが恐れ侍れば申さず。あやまちは、やすき所なりて、必ず仕ることに候」——ということで、あと 15 分ですが大休止。19 時過ぎ、登山口に戻りました。

高所恐怖症で今まで近づくことのなかった悪場ルート。これから先も決して使うことは無いと思っていたガチャ類。3 月末からの雪山講座 3 回にジムでのクライミング経験、そのすべてが収斂されたような、充実の 2 日間でした。「得た知識を活かしながら実際の冬山雪山を数多く登ること、易しい山・コースから徐々にグレードを上げていく工程が肝要」と少しずつ指導して下さった F さんと黒戸尾根に、心からの感謝を。

6:04 竹宇駒ヶ岳神社 (770m) → 6:20 分岐 → 8:19 笹ノ平 → 10:29 刃渡り → 11:05 刀利天狗 (2049m) → 12:17 五合目小屋跡 (2170m) → 12:34 屏風岩 (2262m) → 13:41 七丈小屋 (2370m)

5:30 七丈小屋 → 6:31 八合目御来迎場 (2682m) → 7:49 九合目 → 8:49 頂上 (2967m) 9:21 → 11:02 御来迎場 → 11:52 七丈小屋 13:07 → 14:47 五合目小屋跡 → 15:34 刀利天狗 → 15:58 刃渡り → 17:14 笹ノ平 → 18:44 分岐 → 19:07 竹宇駒ヶ岳神社